



新しい沖縄を語る場を考える 地域円卓会議

沖縄の人たちが沖縄のことを自分の感性で言葉にして
発露し対話する場が足りない？
「あなたの沖縄」プロジェクトを通して考える
これからの沖縄文学のための言説空間について

実施報告書

日 時： 2025 年 7 月 6 日（日） 13:30-16:30（受付開始 13:00-）
場 所： 琉球大学附属図書館 2F ラーニングコモンズ（沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地）
主 催： 公益財団法人みらいファンド沖縄
協 力： NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】新しい沖縄を語る場を考える地域円卓会議



■日 時：2025年7月6日（日）13:30-16:30

■参加者数：45名（琉大講義受講生、自治会等地域組織、他）

■場 所：琉球大学附属図書館 2F ラーニングコモンズ

■主 催：公益財団法人みらいファンド沖縄

■着席者数：7名（論点提供者、司会、記録者含む）

■協 力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

西 由良 氏（あなたの沖縄 代表）

沖縄の人たちが沖縄のことを自分の感性で言葉にして発露し対話する場が足りない？「あなたの沖縄」プロジェクトを通して考えるこれからの沖縄文学のための言説空間について

公益財団法人みらいファンド沖縄に新しい基金が設置されました。「ぶとーや&ルイス沖縄文学基金」と称されたこの基金は沖縄の文学を世界に紹介することが目的です。現在、誰にどんな助成を行なうとその目的が達成されるのか、様々な方々と対話を続けています。調査を進める中、海外に沖縄を紹介する良質なコンテンツがうまれるには、県民が気軽に言説を交わしていく場があり、沖縄県民が沖縄を語り言葉として残すことが、結果県内の読者や作家が育つ土壌になり、コンテンツが生成されていくのではという仮説にたどり着きました。今回の円卓会議では、90年代生まれの若者たちが沖縄に関する言葉を紡ぐ「あなたの沖縄」プロジェクトの活動を通して、琉球諸語も含めた沖縄の言葉を我々がどう紡ぎ発信していくかを考え、同時に沖縄文学のこれまでとこれからを確認します。

センターメンバー



西 由良
あなたの沖縄
代表



古我知 浩
元関東沖縄
青少年の集い
ゆうなの会



我部 聖
沖縄大学
経法商学部
准教授



新城 和博
有限会社
ボーダーインク



座波 幸代
琉球新報社

新しい沖縄を語る場を考える 地域円卓会議

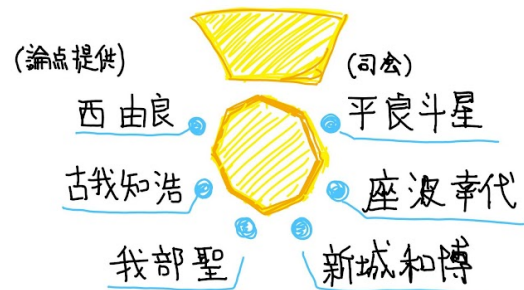
地域の困りごと
を社会で共有

2025.7.6(日)

13:30 ~ 16:30

④琉球大学附属図書館
2F ラーニングコロンズ

沖縄の人たちが沖縄のことを
自分の感性で言葉にして発露し
対話する場が足りない？
「あなたの沖縄」プロジェクトを通して
考える これからの沖縄文学のための
言説空間について



主催 公益財団法人 みらいファンド沖縄

ぶとーや & ルイス沖縄文学基金

公益財団法人みらいファンド沖縄

『じぶん基金』

Yoshiさん(比嘉 よしはるさん)

アメリカ在住
名護出身
グラフィックアート
の専門家

事前WS

「文字」で表現された
沖縄の作品が翻訳されたものが少ない。

円卓会議

沖縄の文学を世界に
ひろめたい。

助成プログラムづくり

- ✓ 翻訳者の問題
- ✓ 沖縄の読者数の少なさ

公助・助成事業スタート

若人の読書力と
書き手を育てる

琉球を文学の島へ!

論点提供

西由良

あなたの沖縄代表 2021年へスタート

沖縄ゲームのあとに成長してきた
1990年代生まれの20~30代
個人的な体験をコラムとして書く

Noteを使ってコラム更新中! 週1本

執筆者 52名 186本

- 自分の体験から
沖縄について考える

- 沖縄の語りを増やし、
多様にする!

知っているから
○○いじゃんから
語りづらい

わかった気になる。
でもわからない。
ゆききする

かくと
わかった気にな
る

当事者になれる、なれない。

語りが多様になれば、話しやすくなる

自分の体験から沖縄について考える

ちよとした

文化や問題

伝える

考え続けることが大切

イベント

ZINE制作

ワークショップ

提題

沖縄の語りを多様にする
＝沖縄文学の発展

- ✓一定数、「沖縄」に対する興味・関心も、いる
- ✓沖縄の文化を受容する基盤は？
- ✓読んでいないわけではなく、語りが少ない印象
- ✓沖縄文学は、語りを多様にする上で、
欠かせる参照点
- 沖縄を語りやすくし、言葉を多様に
- 沖縄文学が読まれ、考えられる場面増やす
- それが新たな文学が生まれる
土壌を



古我知 浩

元東部沖縄

- ✓ぼくらの時代と大きくちがう。
- ゆうなの会 東部支部
- ✓1981～1983年 東京へ
- ✓ひとりひとりとても苦労していた。
- ✓ゆうなの会の活動へのめりこむ
- ✓沖縄での就職率60%→本土へ
- ✓東京で多くの若者くいていた
- 長時間労働、夕コバヤ、
- 就職の前後情報なく、フォローもなく。
- 職場にこめず、ひきこもり、犯罪へ

「沖縄出身者 お断り」

つかまった人、はげましたり、弁士紹介したり
沖縄の家族へ連絡したり。

サウ金に手だしたり → サウ金相談
相談するところがあれば、調停にまわす

「エイサーの夕べ」

県人会

せーしははやがらね
沖縄であること
かきしめた

たけのこ族より先にエイサーで
ホコテンやってた

④ コミュニティづくり

- ✓人に話して、きいてもらう
- ✓沖縄のこと語ったり
- ✓ホコラの回復力、いやさしになっていた
- 成長、ぶつかりあって、出身者の中でも

沖縄こころの
大きなくちが
必要だった



我部 聖

沖縄大学

沖縄文学

1996 東京へ 米兵退行翌年、おむろなみえみ

わかったつもり、知ったつもりのことから

めぐるまわりの作品から

沖縄と語る言葉をみつけていった。

読者 作家と読者

研究者

ひびき家

こういう風に読める
深くよめるように

WS⇒この場ではかけない、むかえる

安心して語れる場

沖縄の文学賞たくさんある

作品よめることが大事 ← 支援が必要なお部分も
よめるもの、よめないうち
紙 web ある 作品集に出すなど

コストをどうみるか

その時代、感覚があらわれる (文学)

沖縄文学⇒歴史、沖縄像、光とあひく

復帰後、2000年代... モチエを言語化

✓ 沖縄以外の地域の人に対して

✓ 物語・フィクションを通して伝える

✓ 社会学⇒今の問題に対して

✓ 文学⇒これにふさわしいことを伝えたい大事



新城 和博

書店へいる

1989 キーワードコンストラクト

何かに対してのからしめ

上の世代に対して

サツカ

コラム⇒個人・好きなこと、かける

熱

読者⇒お金だしてくる人

宝島⇒直木賞とてうれた

小説よまなう

書き手多いうち、読み手が書き手

300~500部

商業ベースにはのらない

小説 - 個々

出版業界でもとくしな分野

全国キボで7000部くらい

とよながさん 22才

今40才、スリッパできた

影響をうける人々、ハズ

同人誌

300部⇒1500部にのびる

賞とていふ人・作品と

熱をもつ、ほめる

本もある

おもしろい読んだよ

熱量もつて伝える

おもしろく伝える人

うまれたカコ作も

「カクテルパレード」
かかってないね。

座波幸代

2017～ワシントン特派員

ヨシに出会った。いろいろ語った。

↓
新報・文学賞いふた。

えらんだのであれば、よめるように。

語りづらさ → 新聞のとりあげ方に問題ないか

2塊対立にしがち

正論をよいかぜしすぎてないか

新聞カフェ 語りあう場 必要

サブリナ

（はるきかけ。今がチャンス
場、おみやげ、かたやあ

県外 外からきた人 → 語ってはいけな〜 実作性

フィクションは語れる （寧ろ語りを多様な視点から
みずから SNS 等

沖縄文学 → よんでこなかった

おもしろいことがおききかも

403こと。 土場 が、きづきになった

語りたこと 読んでみたへ〜になった

へんけん → どの土地にもあてが、

沖縄と日本という構図はしん

文学 → 小説だけで

なしてよいのでは

沖縄の小説 → 面白が

せぬのは

県外出ることで〜

当事の苦勞

どうみてもかきとる

セッション2

どんなお金の使い方？

沖縄の文学だけではない

文化、こころ

沖縄の力に
なっている

元気にするこころ
お金使えたら

本・雑誌は
具本の場合
できる

モノ・人があつた
場合できる

場への
投資

手わたし
できる

文学
フリマ

1人とか
くる

若い人
おもしろいこと

次の世代に
つながること

山口ひろげても

視点を
与える

沖縄を
こう見る

台湾・中国
東アジア100年
の中での
沖縄文学

面白い
作品が出れば
読まれる

沖縄を語る
ことばを
与えてきた

ありえたかも
しれない
今の
からの気づき

フィクション
ノンフィクション
つながっている

沖縄文学
かいてきた人
よみ手でもある

れんめんと
つづいている

以前作品
表現に
しるげを
つける

沖縄に
はまる

マジック
リリズム

100年の孤独
とか

熱を
語れる

面白いものを
面白くする場

まとめ (ゆづん)

沖縄文学って何か?

○○でな～い～いけ～ない。

という圧。ある

多様化する中で読まれる

他者のものを受け入れていくこと

若い人のうできと応援する

その人が自信が共有し、参加できる

沖縄文学を語る場の本とまずつくっては

県外にもひろって。

同世代の場。なぜやっているのか

まとめて発信しては。

(司会) 斗星丸

✓ 書くこと、語ることの体験

✓ 誰かとのやりとり

✓ 多様にかき手がふえていく

✓ 沖縄を語ることの有用性 → いせし。視点
導線 -

✓ よまれて、売れる。

✓ 場づくり — (よむ・かく・つなぐ人)

■今後のアプローチの方向性（提案）

■円卓会議で提供された情報により、わかったこと

2つの「場」の必要性

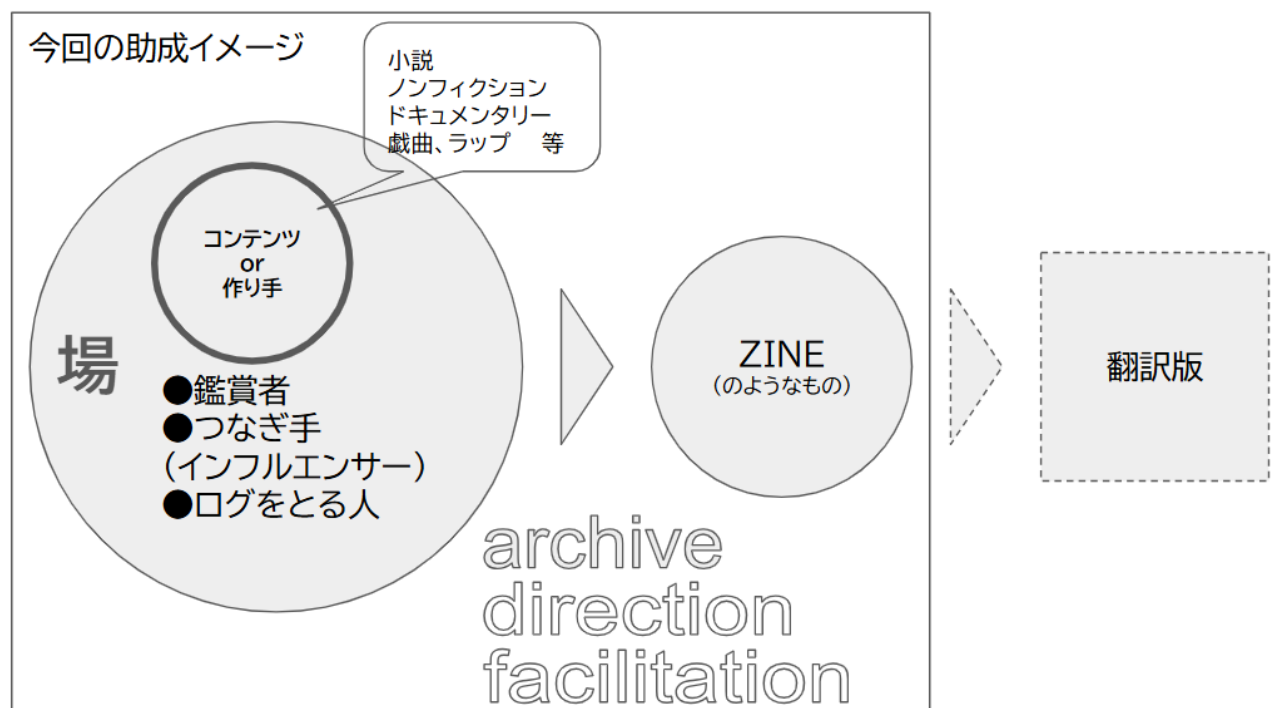
1. 沖縄のことを語り発する安全な「場」

沖縄の人々は、様々な世代や階層において（程度の差こそあれ）、被差別感情やコンプレックス等の「傷」を抱えていること。沖縄の人同士の語りの「場」がその「傷」を癒やしてきたこと。

2. 沖縄から発せられるコンテンツを味わう「場」

単純に文学賞等を通した発掘と発信だけでは、作品が読まれる（売れる）環境ではないことがわかった。文学のみ読み手と書き手とつなぎ手のコミュニティ形成ができる、コンテンツを通した「場」が必要。

■今後の事業モデルの提示



■参加者によるサブセッション

沖縄の人たちが沖縄のことを自分の感性で言葉にして発露し対話する場が足りない？

「あなたの沖縄」プロジェクトを通して考える

これからの沖縄文学のための言説空間について

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 商業媒体としての
文学誌の限界

↓

間口を広げるためにそれぞれの生活の中で

「わたしに見えること」を

書いていくことから始める

- ・ コラム - ウチナータイム
- ・ 世代など色々違う、かつとう
- ・ 本→ネット、課金
(ノート) →うまく分類、けんさく
- ・ 沖縄だけ文学？千葉とかは？偏見
- ・ 文学と場がセットか～

②

- ・ 外に出ることで見れる視点がある
- ・ 沖縄人が苦労したことを知れて新鮮
- ・ コラムは思っていることがそのまま書けると
思うので広まるきっかけになる
- ・ あえて小説に絞った意味とは
- ・ 沖縄以外には間口が狭い
- ・ 沖縄戦に触れずにはいられない

③

- ・ 熱量のある人が話す場
- ・ 沖縄文学とは？
- ・ 触れることがない
- ・ 子供たちに発信する
- ・ 絵本も沖縄文学？
- ・ 小中学生向けの本を送り込む
- ・ 暗い本が多い(戦争、暴力等)
- ・ そもそも本を読まない

- ・ 書評動画で紹介
- ・ お笑い米軍基地も話ができる？
- ・ 入り口をもっと入りやすく
- ・ 本好きの沖縄芸人が紹介!?

④

- ・ 沖縄の文字は重そうに思えてなかなか読めない、選択してない
- ・ 学校でも紹介されてこなかったのでは？芸能は紹介、歴史は学んできた、親しんでない
- ・ 単に機会がなかった
- ・ 親しい人、尊敬する人が読み出すと、読んでみるかも
- ・ 外に出ると、沖縄への想いが改めて出てくる
- ・ 沖縄文学がなぜ重たそうに思えるのか分からない

⑤

- ・ 県外へでたことで振り返ることができる
- ・ こがちさんのようなことはなかった but 違和感あり
- ・ 親父さんが大学東京、苦労話をきいた
- ・ 子どもを出したいが、迷いがあったのでは？
- ・ 沖縄の話を聞いたことがない
- ・ 沖縄文学も読んだことはなかった
- ・ NPO 支援で興味をもって読めるようになった
- ・ 文学は興味を持ち始めている(ノンフィクション)
- ・ 沖縄の差別を实际きいて、今との違いを感じた
- ・ 語る場所が少ないことには共感している

- ・ 住んだことはないが、関わることで沖縄は自分の意見をいづらい感じがする
- ・ 場をととのえる大切さを感じる

⑥

- ・ バックグラウンドが様々だった、
- ・ もやもやは簡単に晴れない・・・
- ・ 円卓会ギはもっとカタイ場だと思ってい
- ・ 書き手と読み手の関係性がおもしろい
- ・ 心理的安全性

⑦

- ・ 沖縄の人が差別されている
- ・ 外から来た者だから語ってはいけない
- ・ フィクションは逆に語ってよい場になりうる
- ・ しゃべる、語る場
- ・ 小説好きだがメジャーなもの、売れてるものとかで沖縄について書かれてるのは読まなかった
- ・ 読むことは実はおもしろいことかも!!⇒読み手が主体に
- ・ 今日がその場になる
- ・ 本はあくまで個人のしゅみだが、周りから色々紹介されると読みたくなる
- ・ 池永さんの本好きだったのでオススメする「テンペスト」「ヒストリア」も最高
- ・ 大学は自由さがある
- ・ 土地に対する偏見はどこにでもあるはず
- ・ どうしても沖縄と日本

⑧

- ・ 県外からみる沖縄 沖縄戦とかタブー感？
- ・ 本よまないなー
- ・ 北海道からも内地とは言わない
- ・ 沖縄の外と内感 本土復帰前はアメリカ
- ・ 離島も違う？沖縄の中でも分かれる
- ・ 本土内でも、北海道でも神戸でも(笑)
- ・ 親族問題 長男!?とか

- ・ 沖縄いれいの日 沖縄戦ふれちゃいけない？
- ・ 修学旅行、とか平和学習
- ・ 県内と県外の捉え方の差
- ・ 沖縄県民でも少ししか知っている情報ない
- ・ 戦争体験、親族、聞けない
- ・ 言いたくない？人の家とか
- ・ うちなーたいむ
- ・ 沖縄だねーって言われること
- ・ 感想 読む？ジャンル
- ・ 本のこと、コミュニティのこと

⑨

- ・ 話に出た本を読んだことがなかった
- ・ 沖縄文学とは？
→ハードルが高い

◆概要

- #### 4. 滿足度

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
15 名	9 名	1 名	0 名	0 名

自治体	割合 (%)
那覇市	28%
中城村	12%
豊草城市	8%
南城市	8%
糸満市	8%
名護市	8%
沖縄市	4%
うるま市	4%
宮古島市	4%
石垣市	4%
与那国町	4%
南大東村	4%
県外	4%

Category	Percentage
琉大講義受講生	76%
自治会等地域組織	8%
学生	4%
教育機関	4%
自営業	4%
企業	4%
学生	4%

情報源	割合
主催者からの案内	72%
その他	28%

(5. 満足)

- 10

- ・ 活字離れが進む中でさらにコアな沖縄文学について聞けておもしろかったです。
- ・ 沖縄の小説を読むことがなく、なぜ読んでいないのか考えることすらなかったのですが、会議の論点提供やセッションで情報や機会を得ることが出来ました。
- ・ 内容が分かりやすく、沖縄に関する多様な視点に触れることができました。有意義な時間を過ごすことができたと思います。
- ・ 沖縄文学なんてジャンル自体知らなかったし、本も全く読まない、基金って何ってくらいでした。何か本読まなきゃ、沖縄文学読みたい！って思えたし、読み手の1人になろうと思いました。あと、沖縄の歴史知らなすぎで。学びます。
- ・ 「沖縄文学」についてこれまでも読んできた作品は多くあるが、熱を持って語れるくらいの読み方をやっていきたいと感じました。
- ・ 実際に円卓会議を肌で感じる事ができた。
- ・ 地域円卓会議の何たるかを知れた。
- ・ 幅広い視点から文学について考えることができた。少し関心を持てるようになった。

(4. 概ね満足)

- ・ ディスカッションに入る前に論点提供者やセンターメンバーの方の話をくわしく聞くことができたので、ディスカッションしやすかった。しかし、ディスカッションの時間が少し短いと感じた。
- ・ この場自体がまさに「場」となり沖縄文学について多くの人が気づきをえられたと思います。
- ・ 円卓会議という新しい手法を実際に経験できたので。
- ・ 初めて円卓会議というものを実際にみる事ができ、手触りを掴むことができた。
- ・ 今までなじみのなかった文学という分野に触れる機会が持てて良かったです。正直難しいテーマでした。

- ・ 普段本を読まないの沖縄文学についてここまで深く知る機会が無かった。
- ・ 講義では今まで知らなかったことやあいまいだったことをあらためて学ぶことができたからです。とても良い機会になりました。
- ・ 「あえて」かもしれませんが、テーマが高質な上に大きすぎる気がしました。私の頭の中で「沖縄文学とは何か？」という問いからずっと離れることができず、「沖縄文学」って何？そういうことを少し詰めたくなりました。
- ・ 地域円卓会議の実践を見たことで、実際の流れ等について理解できた。

(3. 普通)

- ・ 課題の共有が目的であることは理解していましたが、やはり体験してみると明確な成果を感じられなかったの論点提供者のメリットを感じられませんでした。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 「語る場が必要」という話しについて、これまで円卓会議の講義の中で様々なテーマが議論される中で、何度も聞いているかなと思います、そういうテーマがある事象こそ円卓会議で議論すべき内容なのかなと感じました。
- ・ 池上永一の本をもう一度読み返したくなりました。
- ・ おもしろい本をリアルの場で感想を話し合うこと、批評家などから深い読み方を教えてもらうこと。
- ・ グループで話している中でなぜか沖縄文学を読まないという点についてある方が沖縄ときくと戦争や社会問題物だろうとなって本で聞くにも気合が必要と話したのに同感した。
- ・ メディアが記事にする際、問題を二極化で提示、それぞれの立場に正論を与えることを構造化している点が印象的だった。

- ・ 沖縄文学とはなんなのかということであらためて考えるとともにそれを広めるための方法についてのアイデアが色々あっておもしろかった。
- ・ 一つの課題を深掘りするために大切な手法と改めて思いました。
- ・ 地域円卓会議の「聞き手の共通の共感」と「議論したい事」を深める（沖縄で見て知っている - きいた事がある事）という事を感じ考える事ができてよかった。
- ・ そもそも沖縄文学ってなんだろうって疑問があります。沖縄の作者が書けばいいのか、沖縄のことを書けばいいのか、定義する必要はないと思うのですが、なんでもいいわけではないと思うので、なんとなくあったほうが良いと思いました。
- ・ 自分も含めみんなが沖縄について思うことがあると分かった。「場」の提供があることで沖縄について考えるきっかけになった。
- ・ 色んな人が語ることがよいことである!!「場」は大事←「モノ」があること。
- ・ サブセッションの中で紙の本が売れなくなるのは仕方ないので、ネット購読で課金して読んでもらうシステムが必要とのアイデアがよかった。
- ・ 知らないと話しづらい、話せない→コラムは自由に話せる。
- ・ 熱量がある人がいると議論の活性化につながる。ファシリの人がうまくコントロールする必要がある。
- ・ 沖縄のことを多くの人が語れない、語りにくい。
- ・ 80年代、沖縄県出身の先人の方々が苦境に立たされていたことに興味が湧いた。
- ・ マジックリアリズムの文学賞、すごく素敵だなと思いました。
- ・ 沖縄文学が中国及び韓国とつながりが深いこと、沖縄県民が内地におもむいた時の県外の対応。
- ・ 沖縄文学は東アジアの歴史をからめた作品が書かれると世界文学になるという観点。
- ・ 議論の中で沖縄の語りを増やし、多様化するという点で県外、または若い世代が戦争について語ってはいけないような壁を払拭する、批判されずに考えを深め合う場を作ることが、語りを増やすことに繋がると感じた。そう感じている若者世代にアプローチをかけて欲しいという気持ちがあります。また、今回みんなの沖縄、また世に出回っている作者が作品を作った背景、その人のバックグラウンドを語ることが意外と作品を読んでもというきっかけでは重要だと思った。どんな気持ちで作ったという事実が読者の読みたいという気持ち、語り継ぐという点で大きく心が動かされると思いました。
- ・ 「沖縄文学」というとどうしても戦争といった言葉が付いて回るけれども、そこで必ずしも付けることはなく、まずは近い人たちからつながっていき、話せる場が少しでも増えることが良い、と考えることから始める、それが大事だとわかりました。
- ・ 西さんのアイデアはとても印象に残りました。以前から課題となっている沖縄県の本の読者数の少なさと文化の伝達を同時に楽しく解決できるような取り組みだと思ったからです。特に「個人の体験」を重点にし、色んな人が見た沖縄を他者に知ってもらうこと、自分の体験が他の人にとって有力な情報になるんだと実際に感じたことで、継続した文化伝達とこまかい部分まで沖縄について知ってもらえることがとても良いと感じました。
- ・ 必ずしも文芸本のみにしぼって考える必要はないのではないかという視点は新鮮。

(写真) 会場の様子



商業媒体としての
文学誌の限界



間口を広げるために
それぞれの生活の中で
「わたしに見えること」を
書いていくことから始める

つらみ - 1941-96
世代'如'を'選ぶ' かつう

本→ネット・課金
(1-1) → 読む分類・H456

沖縄だけ文学？ 特集とかは？
偏見

文学 と 場がネットさん

- あえて小説に絞った
意味とは

・沖縄電以外に
は間口が狭い

・沖縄戦に目撃れ
ずにはいるれない

・外に出ること
見れる視点がある

・沖縄電人が苦労して
ことを知れて新鮮

・コラムは思っていることが
そのまま書けると思うので
広まるきっかけになる。

- 熱量のある人が話す場
- 沖縄文学とは?
- 触れることがない
- 子供たちに発信する
- 絵本も沖縄文学?
- 小中学生向けの本を送り込む
- 暗い本が多い(戦争、暴力等)
- そもそも本を読まない
- 書評動画で紹介

- お笑い米軍基地も話がでる?
- 入り口をもっと入りやすく
- 本好きの^{沖縄}芸人が紹介!?

- ・ 沖縄の文学は重そうに思えて
なかなか読めない、避けてる
- ・ 学校でも紹介されてるから下
のでは? 芸能は紹介、歴史は
学んでる下、親んでる
- ・ 単に機会がないから下
- ・ 親しい人、尊敬する人が読み
出ると、読んでみるかも、
- ・ 外に出ると、沖縄への想い
が改めて出てくる

- ・ 沖縄文学がなぜ重そう
に思えるのが分かる

果外へでたことで振り返ることができる。
こがちゃんのようなことはなかった。but いちいちあり
親父さんが大学東す。苦勞もをきいた。
うともを出したいが、迷いがあつたのでは?
沖虎の影を聞いたことがない
沖虎と学も通んだことはなかった
NPO支援で興味をもって通うようにあつた
文芸は興味も持たず始めている (インフィニティ)
沖虎の老練を突ききいて、今の通いを感じた
通う場所が少ないことには気付いている
信じたことはないが、周知のことで
沖虎は自分の意見もいっすう感じがする
場とととのとり大切さを感ずる

- ・ バックグラウンドが様々だった。
- ・ もやもやは簡単に暗くなる...
- ・ 田舎会ではちとカタイ場だと思っていた
- ・ 書き手と読み手の関係性がおもしろい。
- ・ 心理的安全性。

- ・沖縄の人が差別されている
- ・外から来た者だから言語、文化はいけな
- ・フィクションは逆に読む、よい場になろう
- ・しゃべる・読む場
- ・小説好きだが、メジャーなものとか、沖縄にしか売れてるもの、
読まれているのはよいのに
- ・読むことは
実はおもしろいことかも!! ⇒ 読み手が主体に

・今日が その場 になる

本はあくまで個人の好みだが、周りから色々お話し

・『上野さんの本好きだったの』
『ヒストリア』も最高 オススメする。 これと読みたくなる。

・文学は自由さがある。 『テンバースト』

・土地に対する偏見はどこのどこでもあるはず

・どうしても沖縄と日本

○ **県外** しみ子沖縄 沖縄戦とか タブー感？

○ 本もよまないなー。

北海道 からも 内地とは言わない。

沖縄の外と内 感 本土復帰前はアメリカ。

離島も 違うー？ 沖縄の中で 分かれる。

○ 本土内でも。北海道でも神戸でも。(笑)

○ 親族問題 長男!?とか

○ 沖縄 いれいの日。 **県内**と 県外の捉え方の差

沖縄戦 小中をいっしょに?? ^{少なか。沖縄県民でも。} 知ってる情報ない。

修学旅行。とか平和学習。 戦争体験 親族

(うちは-たいむ)。

聞けない。

言いたくない? 人々の

○ 沖縄だからって

言わねこと

感想

読み?

ジャンル

本のこと

コミュニティのこと。

- ・ 話に出た本を読んだことかなかな
- ・ 沖縄文学とは?
- ・ レッハードルが高い